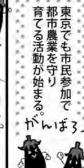


-地場野菜・生活クラブ農園-

1976年







また、

987年頃からは、

形もサ

文以上に引き取ってもらっていた。

多い一方で、

沢山できたときには注

支えようと、

コレ

クティブも現れ 加工事業を始めるワ

た。

加工することで生産者や共同購入を

イズもバラバラな大量の旬の野菜を



2002年 農作業受託組織

2003年 農安心ネットワーク結成!

1976年11月保谷で、12月町田で ◇ (00班が参加! // 実験取組み開始

きゃったよ-禁止していな

を 身近に 農地が

新

食べ支える他にあるの?

たに

-配達の道案内-

1995年 世界貿易機関 (WTO) 発足

農家の高齢化・後継者不足

東京の農家・農地が減り続ける

輸入自由化の時代に

41.41.41

生活クラブが農業参入

2011年

2016年

生活クラブ農園・高

プロの指導

生活クラブが用意します。

農薬にてきるだけ頼らない!

やさしい農業をめざそう

園者とうしの 情報交換や交流も/

く改良されたもの

生きものや環境に

●均一なものができる●安定した収量

味よりも作りやすさ重視。

固定種を食べて 品種を維持して

行かなくちゃね

●作りやすい

農機具や種も

のらっこ**しみず** のらっこ**おいぬま**

開園

農業体験。

生活クラブ農園は

無農薬や固定種の 栽培にもチャレンシ

開して

る

「指定産地」

が

約20

準をクリア

者」は全国で86グ

栽培方法などを情報公8がループ。一定の基

になる。

農あるまちづ

むけて

しているの!

0

伝統と文化の中で育まれてきたもの

●形、大きさがバラバラ●収量が少ない 栽培に工夫が必要 味は良いが作りづらい

定

固

手間がかかるので

一般の農家では取り

組みづらい種なんだ

農支援、

地場生産者との連携による

全農との提携の

方で、

援農や就

届くのが、楽しみり

食べて

への地場野菜の 出荷もしてます

農」を身近に 感じられるように なった!

生活クラブと提携する 東京近郊の地場生産者の会

食料自給率

低下

地場野菜を扱うには引ノイダ

もらえた!

1983年

取組みスタート-東京全体で

や、てみよう

だったのは、需給調整だった。欠品も野菜の取組みで当初一番の問題

地場野菜の取組

輸入自由化 の時代

すすみ、 ていった。 2018年には、 きざりのまま、 が設立すると、 スで73%もあった食料自給率は 995年WT 9 6 農産物の輸入拡大は 5 37%にまで下が 年にはカロリ 0 食の安全性はお (世界貿易機

流関係が深く生活クラブの独自規格 可能な産地を全国規模で提携して くこととした。 合)との共同事業に取り組み、持続 2000年に全農 であった。これらの問題に対して、 けでは種類も限定され、 徐々に増えて 「当てにできない」とい 生活クラブ い で 2 0 1 ったが、 の (全国農業協同組 野菜の 9年現在、 地場野菜だの取組みは 欠品も多く 「提携生産 われる状況 交

組んで 園では も伴って され ちゃし プロ デポ 重要にな 統に根差した固定種 性質のものは育たないF1種に対し 培や食べ方に工夫も必要。 て固定種はそれが可能。 り」の実践にチャ 種の栽培を行ない よる農地の所有に対する規制が緩和 年の農地法改正で、 種を自家採取しても次世代で同じ 農業体験や、 あきる野に直営農場をスタ たことを受けて生活クラブで などさまざまな固定種に取り 「寺島ナス」 いるので、 の出荷など都市農業への って また、 くる。 められ 無農薬栽培、 レンジしている。 「農あるまちづく 企 業 地場生産者から 価値観の共有が は、 や 生活クラブ農 ただし、 食べる文化 「内藤かぼ (法人) 地域の伝 2 0 0 固定

栽

10

生活クラブ農園

やるべき問題は いろいろあった!

れるのね! 野菜が食べら 野菜が食べら

育てるのも 野菜を のも

2017年

05

農あるまちづくリ委員会を設置

農を通して様々な人が

は、

「新黒水菜小松菜」

や

人参」

出会い、交流し、参加する

場をつくっていきましょ

あきる野運営委員会設置

生活クラブも

それってり

見せられる ところを ところを の が育つ